

積み重ねることの大切さ

本日、学校生活が再開しました。皆さんは、この夏休みをどのように過ごしたのでしょうか。受験に向かう3年生は「勝負の夏」と自覚し、夏休み前に目標や計画を立てて臨んだことと思います。でも夏休みが終わり、「思うようにできなかった」と自己嫌悪に陥っている人もいるかもしれません。私もその1人です。夏休み中、本を5冊読もうと、目の前に積んでおいたのに、読んだのは結局1冊のみ。ジョギングを週3回は…と決めたはずなのに、1回がやっとでした。できなかったことに対しては後悔や反省をしつつも、これからだって再スタートを切ることはできると、今は気持ちを新たにしています。

前期後半のスタートにあたり、皆さんにお話したいのは「積み重ねることの大切さ」ということです。今、私は指で何かをつまんでいます。見えるでしょうか？小さすぎて見えないですね。指でつまんでいるのは、一粒のお米です。

今から300年ほど前、江戸時代中期に新井白石という政治家・学者がいました。徳川第6代・7代将軍に仕え、幕府の政治を大きく動かしていました。小学校の社会の時間に名前を聞いて覚えている人もいると思います。立派な政治家・学者であった白石ですが、子供のころは、勉強が好きではなく、朝から晩まで友達と遊び回っていたといえます。それをみかねた父親が、白石に対して、次のようなお話をしたのだそうです。「米びつ（お米を入れて保管しておく木箱）から、一粒の米をとっても、お米が減ったかどうかはわからない。反対に、米びつに一粒の米を加えても増えたかどうかはわからない。けれども、1年、2年、3年と毎日一粒ずつ加えていくと、増えたことがわかる。勉強も同じだ…。」

米一粒のお話と勉強がどのように同じだということか、白石の父親のお話には続きがあります。皆さんならわかると思います。1日2日と勉強をさぼっても、急に内容がわからなくなることはないでしょう。でも、それが半年、1年と続けば…、反対に、1日1日の勉強をしっかりと積み上げていけば、大きな成果を得ることができるというお話です。

1日1日の勉強というのを、1時間1時間の授業を大切に積み上げていくことに重ねることもできます。また、家庭学習でも同じように考えることができます。例えば漢字の学習です。中学校の3年間を終える時点で、小学校で学習した学年別配当漢字を書くことができ、文や文章の中で使い慣れるようにすることが目安の1つになっています。小学校で学習した漢字は1026字あります。1026字の全てを同時に確認したり覚え直したりするのはとても難しいことです。3年生の皆さんの中学校生活は残り7ヶ月。7ヶ月もあれば、1日たった5つの漢字を確認したり覚え直したり意図的に文章中で使ったりすることで、1026字をマスターすることができます。このことは、漢字の学習に限ったことではなく、勉強全般・生活全般に当てはまります。積み重ねを始めるのは、早ければ早いこしたことはありませんが、今日からでも明日からでもいいと思います。まずは、始めてみましょう。「三日坊主」になったとしてもかまいません。何度でも再スタートを切れればいいのです。今日から始まる前期後半は2ヶ月たらずの短い期間です。2ヶ月という期間は、積み重ねを継続し、何かしらの成果を得るのに丁度よさそうです。前期後半の期間を有意義なものにしていきましょう。